



橋本由美子 (日本共産党)

- 1.公園トイレ撤去決定は慎重に
- 2.アルコールマナーと健康配慮
- 3.高額療養費上限引上げは問題

- 問** 公園再編に向けた社会実験目的と成果を伺う。
- 答** 大谷戸地域の実験では、今後の利用案を机上だけでなく市民に体感、意見をいただける機会になったと思う。
- 問** 一部トイレは廃止ではなく存続の希望が強く出されているが、今後どのように対応するのか。
- 答** 十分承知はしており慎重に検討していきたい。
- 問** 一定量を超える飲酒を続けることは、健康に悪影響を与える。市としての啓発の取組み状況を伺う。
- 答** 各種健診後の保健指導、妊婦面談等で実施している。
- 問** 学校での指導はどのようになっているのか。
- 答** 小中学校でも、飲酒の弊害や薬物乱用防止教育を実施しているが、飲酒運転防止の啓発は行っていない。
- 問** 高額療養費の上限引き上げの動きがあるが、長期療養者等の大きな負担がでる。市としての考えを伺う。
- 答** 今回の引上げ議論が患者不在で進んだことは遺憾である。セーフティネット機能は重要であり、高額治療を長期に続ける患者等への配慮が必要である。



▲撤去予定の諏訪第3公園のトイレ



藤原マサノリ (志政会)

2025年問題と健康増進策について

- 問** 健康推進には事業者などを含めて健康データの周知と共有で関心をさらに高める必要があるのではないかと。
- 答** 健康調査に類するデータは色々あるが広く周知という点では十分ではない。さらに取組んでいく。
- 問** 若年期の生活習慣病に加え、高齢者と女性の就業率が高まる中で職域との連携は重要と考えるがいかがか。
- 答** 健康無関心層や女性の健康づくりに向けて、市内業者と協力体制を構築し積極的に取組んでいく。
- 問** がん検診や健診率、人工透析数、野菜摂取や減塩割合、歩数などを蓄積し改善目標にすべきではないか。
- 答** データヘルス計画推進に向けて各種データの蓄積や可視化は重要と考える。さらに工夫を強化していく。
- 問** フレイル予防には栄養・運動・睡眠・社会参加が必要。さらに効果を上げるエビデンスが必要ではないか。
- 答** フレイル予防に関するデータは共有しているが、他のデータとの結びつきが弱い。全庁で改善したい。



いちぢ恭子 (ネット・社民の会)

- 1.教師も生徒も“安心できる”学校とは
- 2.「地域協創」のこれから

- 問** 今年度開始のエデュケーション・アシスタントについて、導入効果と今後の展望について伺う。
- 答** 東京都の補助金を受けて、全小学校に各1名配置。学習支援や登下校の見守り等を行う。非常に好評で補助制度も持続されるため、来年度も続けたいと考えている。
- 問** 学校始業前の子どもの居場所について、親の出勤後に孤立しているケースはないか。
- 答** 多摩市では確認していない。「子どもの朝の居場所」対策を取っている自治体もあることは承知している。
- 問** 地域協創の取組みを進めるには、市民との間の信頼関係が重要。どう考えているか。
- 答** 先行地域でエリアミーティングを開き、市民と職員が共に地域課題の解決に取り組んでいる。今後、地域を拡大していく。
- 問** 高齢化により地域課題も深刻さを増す中、成功の鍵は何か。
- 答** 多世代の参画と多分野の協働を地道に進める。



あらたに隆見 (公明党)

- 1.新たなステージの公園を活かしたまちづくりについて
- 2.地下インフラの点検について

- 問** 若い人たちが集い、出会いの場となる公園活用やクリエイティブキャンパス構想への思いを伺う。
- 答** クリエイティブキャンパス構想が揃いワクワクしている。多くの皆さん、特に若い人たちが集い夢を実現できるまちづくりを進めていく。
- 問** 4月5日オープンが多摩中央公園のPR戦略について伺う。
- 答** 指定管理者のスタッフによる即時情報発信や市の記者会見、広報部員などのSNSの発信などを活用していく。
- 問** 新たなグリーンライブセンターの役割について伺う。
- 答** みどりと環境の拠点として従来のみどりの分野に加え、環境啓発や市民の環境活動のコーディネートを担当してもらう。
- 問** 多摩市の下水道老朽化対応はどうしているのか伺う。
- 答** テレビカメラや目視による管内調査を定期的に行い、下水道施設長寿命化計画を進めている。
- 問** 路面下の空洞化調査はどうされているのか伺う。
- 答** 舗装面の劣化状況調査を毎年行い、幹線道路など必要に応じて路面下空洞調査を行う。



▲多摩中央公園マップ